

急速に進む高齢化社会において、2050年には75歳以上の人口割合が21.5%になるといわれています。それに伴う高齢者の転倒割合も徐々に増加傾向となっています。

当院では、病院内での転倒を可能な限り予防していくことを目的に、医師・看護師・理学療法士・薬剤師などの多職種により構成された転倒転落防止委員会を結成し、院内の転倒予防に取り組んでいます。患者さん個々の状況や院内環境を含めて専門の見地から多職種で連携を取り、具体的な予防対策をすすめています。

1. 目標と目的

当院における転倒事故を防止し、転倒に関する安全管理を討議・検討し、その効果的な推進を図るために委員会活動を行っています。

2. 業務内容

- (1) 当院での転倒に関する報告、分析、対策
- (2) 転倒のリスクのある患者さんと、そのご家族に対しての教育・説明
- (3) 職員に対する転倒防止の指導・啓発

3. 転倒転落発生率推移

転倒転落発生率の全国平均は2.51%ですが、2021～2023年度、長崎病院では0.83%で推移しています。転倒転落防止委員会の活動が予防につながっていると考えます。しかし、どんなに予防をしても予期せぬ事で転倒転落による事故は防げない場合があります。患者さんやそのご家族の協力が必要となります。

4. 転倒転落リスクについて

当院では、入院時に転倒転落に関する注意点や、協力依頼などのパンフレットを作成してお渡ししています。

<転倒・転落の起こりやすい状況とは>

○患者さんがもつ危険性

- ・患者さんの病状の理解が出来ず無理に動いてしまわれる時
- ・入院により認知症状が悪化された時
- ・障害や麻痺で立ち姿勢でのバランスが悪い時
- ・足腰の筋力が低下している時
- ・患者さんが遠慮してナースコールを押されなかった時



○環境による危険性

- ・夜間の体制で職員が手薄になる時
- ・段差やものにつまずく時
- ・床のぬれやワックスなど滑りやすい環境
- ・固定が悪いベッドやテレビ台につかまり、立ち上がる時



<次の点でご協力をお願いいたします>

- 1) これまで転倒・転落を起こされた事がある場合は、職員にお伝え下さい。
- 2) 病状によって落ち着かない場合には鎮静剤を使用したり、やむをえず抑制したりする場合があります。
- 3) 患者さんの安全の為に、抑制する場合は患者さん・ご家族に事前に相談いたします。(緊急時は、抑制を開始後にご報告する場合がありますが、ご了承ください)
- 4) 安全上、ご家族の方の付き添いが必要と判断した場合は協力をお願いする事があります。

<転倒転落を防ぐための注意点>

- ・ベッドから降りる時、トイレ、浴室、起立時、方向転換時は注意しましょう。ゆっくりと何かにつかまって、遠慮なく看護師を呼んで下さい。
- ・メガネなど愛用のものをお持ちください。
- ・杖などは先端が滑らないのが良いです。
- ・寝間着やパジャマの裾は、体にあった長さにしておきましょう。
- ・普段ベッドを利用していない方は看護師にお話し下さい。
- ・日中はなるべく起きていきましょう。昼間寝てしまうと夜眠れなくなります。

- ・廊下やトイレなどではぬれた所を避けて、滑らない様に注意しましょう。
- ・必要な方には、トイレなどへの移動時に看護師が介助同行します。
- ・転倒・転落されたり、またそれを見た際には、すぐに看護師にご連絡ください。



5. 職員に対する転倒防止の指導・啓発

年に数回、全職員に対し、転倒転落防止に向けた研修を行っています。また、月間の転倒転落事故の共有、対策の検討、再発防止のための分析を行っています。

転倒転落の事故があると、直ちに報告書を用いて報告し、カンファレンスを開催します。その内容は、多職種による転倒転落防止委員会で情報共有され、各部署にフィードバックされます。さらに分析結果により、対策の強化を図っています。



6. 事例紹介

転倒転落防止委員会で転倒転落による問題点を抽出し、分析、対策検討した1例をご紹介します。

事例紹介

1) 概要

長崎病院では、転倒転落の原因の一つに夜間、ポータブルトイレなどに行かれるとき、十分に靴を履かないまま行動され、つまづいて転倒される例が多くあった。



2) 分析結果

靴を履き、トイレに行く行動は、自宅ではしていない行動です。ましてやトイレなど急を要する行動時に靴を踵まで履くのは難しいのではないのでしょうか？



3) 対策

ポータブルトイレ利用者やベッド周辺で行動されるすべての患者さんに対し、滑り止めマットを使用。靴を履かずにそのままマットの上で行動できるように対策した。



4) 対策後

靴が原因による転倒は大幅に減少した



私たちが行っている“多職種が協働して転倒リスクを減少させていく”という姿勢はとても大事なことです。それでも病院内で起こる転倒はゼロにはなりません。重要なのは患者さんやご家族のご協力もあってこそ成り立つものであると認識しています。病院全体で取り組む姿勢、医療安全におけるチーム医療として医療者が認識を一つにすること、また患者さんやご家族にも協力を呼びかけながら、安全・安心である入院生活を送って頂けるよう努力してまいります。

